



緑小だより

<http://www.sumida.ed.jp/midorisho/>

令和3年4月6日
墨田区立緑小学校
校長 近藤 幸弘

あいさつは人と人をつなぐ大切な言葉

校長 近藤 幸弘

ご入学・ご進級、おめでとうございます。今年度、緑小学校は、新1年生93名を迎え、全校児童510名で教育活動をスタートします。

本日の始業式、正門に立ち子供を出迎えると、「おはようございます」と元気なあいさつの声が聞こえてきました。元気なあいさつ、おじぎをする丁寧なあいさつ、そして、笑顔のあいさつを交わす子供たちに出会うと私の気持ちも温かくなり、「今日一日、がんばろう」という気持ちになります。

まさに、あいさつは魔法の言葉です。あいさつの語源として、禅宗ではお坊さんが問答を交わし、相手の悟りの浅深を試みることを「一挨拶（いちあいいちさつ）」といったそうです。ここから、一般に問答や返答の言葉、手紙の往復などを挨拶（あいさつ）の始まりとしています。

あいさつは相手を意識して言葉を交わしたり、会釈などの態度に表したりします。人と人をつなぐ大切なコミュニケーションの基本であることは間違いありません。緑小の子供たちにも友達との関係、教員との関係づくりの一步としてあいさつのできる子に育てていきます。

開校110周年で本校の歴史と振り返り、未来を展望

今年度、本校は開校して110周年を迎えます。12月には周年行事として記念集会、式典そして祝賀会などを開催します。子供たちは、この機会に緑小学校の誕生日をお祝いするとともに過去に先人たちが災害や戦災から本校を守り、復興してきた歴史も学びます。

新型コロナ対策では子供たちの安全第一

さて、新型コロナウイルスによる感染予防の中での教育活動ですが、子供の安全が第一です。1年間の感染予防の経験を生かし、教育活動を工夫していきます。その1つがタブレット端末の本格的な活用です。今までの授業時での活用はもちろん、各家庭での家庭学習にも使用していきます。タブレット端末を使うことで、学校への持ち物も見直しを行います。学校で置いておく教科書等も増やし、荷物が重くならないようにします。

また、タブレット端末を活用することで、授業の中で今まで以上にノート指導や鉛筆の使い方、少人数での話し合い活動なども大切にしていきます。

新型コロナウイルスの感染者数が増えてきている時期ですが、学校と保護者の皆様、地域の方々との連携を深くしながら子供たちを守っていきたくと考えています。

今年度も本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

